

講演要旨*

エカフエ「地化探セミナー」の報告

本島公司

エカフエ地域の多くは、岩石の風化生成物が厚く、ジャングル地帯で、普通の地質調査だけで鉱床を発見するには大きな限界がある。地化学探鉱法は、このような条件にある地域ではその適用の有効性があるので、1963年8月5日～14日間、セミナーがバンコックでひらかれるに至った。

会議は次の項目について行なわれた。地化探の一般原理と実技、地化探概査、同精査、分析法、卑金属の地化探、Na・Ta・W・Sn・Mo・U・BおよびLiの地化探、Cu・Ni・Co・Cr・Pt・ダイヤモンドなど塩基性岩に伴なう鉱床の地化探、Auを含むその他の金属と非金属の地化探、石油と天然ガスの地化探、ECAFÉ 地域における地化探の見通しおよび将来の仕事にかんする勧告、国際協力による鉱物資源発見の努力をする時の地化探の役割、セミナー報告書の採択。

* 月例研究発表会講演要旨。昭和38年10月、本所において開催。

各国からの出席者数（と提出論文数）は次のようである。オーストラリア1(4)、セイロン1(0)、中国3(2)、マラヤ1(0)、フランス2(1)、インド1(9)、インドネシア1(1)、イラン1(0)、日本5(8)、韓国1(0)、パキスタン1(1)、フィリピン1(1)、南ベトナム1(0)、タイ8(3)、イギリス3(2)、アメリカ3(3)、北ボルネオおよびサラワク2(0)、西独1(5)エカフエ事務局など10(2)。

会議内容のうち特に気づいた点は次のようである。

- ①エカフエ地域で意外に多くの地化探が実施されている。
- ②概査に stream sediment が使われている。
- ③デチゾンによる分析から自動記録装置付分光分析器に移ろうとしている。
- ④この装置は共同利用で設置したい意向がある。
- ⑤標準試料の準備が必要。
- ⑥低開発国への技術援助が望まれる。
- ⑦他の探鉱法との併用を考えること。
- ⑧各国間の情報交換が必要である。

日本の地質調査所も国際的視野から、地球化学・化学関係の研究をみなおしてみることが必要と思われる。

(技術部)